

# 1 自己評価及び外部評価結果

## 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1870300199		
法人名	医療法人 齊藤医院		
事業所名	グループホーム 藤の園		
所在地	〒915-0802 福井県越前市北府町3丁目10-21		
自己評価作成日	平成23年10月12日	評価結果市町村受理日	平成24年1月23日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigokouhyou.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=1870300199&amp;SCD=320&amp;PCD=18">http://www.kaigokouhyou.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=1870300199&amp;SCD=320&amp;PCD=18</a>
----------	---

## 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 市民生活総合サポートセンター		
所在地	〒530-0041 大阪市北区天神橋2丁目4番17号 千代田第1ビル		
訪問調査日	平成23年11月10日		

## 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

母体が医療法人のため、利用者に異変が起きてもすぐに対応出来る様、看護師、医師との連携を密に図っています。又、同事業所に療養等、老人保健施設、デイサービス、小規模多機能があり、本人の状態に合わせて柔軟な対応が出来る様になっています。当ホームは、ゆったりとした雰囲気の中で、利用者と職員はとても仲良く過ごし、一人一人の思いに副って、利用者が寂しい思いをしない様に、常に声掛けを行って、本当の家族の様な温かな関係が来ています。

## 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

当該事業所では、「友と交わり、地域と交わり、小さな家庭に、大きな笑顔」と職員と管理者が話し合っ作られた理念にそって、日々のケアに取り組んでいます。職員は利用者の出来ることを引き出すべく日々の支援に工夫を凝らしています。外出支援をどのようにしていくかなど、利用者の出来ることを見極め家族の希望を聞き、職員間で検討しながら実施したことで利用者の喜びに繋がった事例もあります。職員はコミュニケーションを十分取り、全体会議などで意見を伝え合うと共に日常的にも意見交換が行われ、個々の利用者の思いに沿い穏やかに日々を過ごすことができるよう支援しています。法人は職員の支援の裏付けとなる知識の習得に力を入れており、法人内研修はじめ外部研修も多くを勤務として参加するなど、職員のモチベーションの向上に向けて取り組んでいます。

## V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	職員全員で話し合って決めた「友と交わり、地域と交わり、小さな家庭に、大きな笑顔が」を理念とし、フロアの目に付きやすい所に掲示して、常に念頭に置きながら最大限の支援を行っている。	職員と管理者で作られた理念は日々の支援に対する思いが具体的で、申し送り時や日々の会話の中で地域との関わりについてなど絶えず確認しています。行事の企画などでは地域の関わりをどう深めるかなど意識的に話しあい、理念の確認を行い実践につなげています。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	市の方より、回覧、市報等を配布してもらい、利用者が何時でも見られる場所において、地域で行われる行事等を感じてもらい、皆で話し合える様配慮している。	町内会から回覧が回り、区長から情報が届きます。企業や交通の多い道路に向けた土地柄という事もあり、地域の関わりは少ない状況ですが、幼稚園との交流が同一法人で行われる時などには、訪問して共に楽しむ機会となっています。建物の上階にある居宅事業所と地域に向けた介護講演などの企画をした事もあり、今後に向けてそれらが実現できるよう画策しています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	相談、見学等継続して行っている。また、年に1度「GH通信」を発行し、公民館などに置いていただき、地域の方がGHIについて知る機会を設けている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は二ヶ月に一度開かれており、経営者、家族の参加も得て話し合いが行われる。特に災害時についての意見交換が多く、緊急時のホームのマニュアル作りには反映させている。また、会議での話し合いは議事録にまとめて各家族に配布している。	運営推進会議は2ヶ月に1度行われ、家族からホームの報告から利用者の状況や様子に対する質問があったり、区長からは災害時の避難や誘導についての質疑など意見交換が行われています。避難訓練の意見の中から、地域自警団との合同訓練の提案などが行われています。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市が催す研修会には必ず参加し、意見交換を行ったり、又、認定調査時には担当者より助言をもらったりして、サービスに活かしている。	運営推進会議への市職員の出席を得ており、研修会など市の主催する行事なども合わせてグループホームの理解が得られています。日常的にも相談があれば気軽に役所に出向いています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束に関するマニュアルが作成されており、全職員が目を通して理解の下で毎日のケアに活かしている。又、職員の数が少ない時はフロアの入り口のドアには鍵をかけているが、玄関の鍵はかけていない。	法人内のマニュアルにもとづき勉強会や研修の機会を持ち、全職員がレポート提出を行い理解を深めています。玄関は解放していますがホールは施錠されており、道路事情での危険性など家族に対して説明を行い、帰宅願望の利用者には同行するなどの対応を行なっています。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待防止関連法についての研修を全職員が受けており、発生する事の無い様に常に注意を払い、防止に努めている。		

グループホーム藤の園

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	全員が研修を受けており、内容を把握している。現在は1名の方が利用されている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入所時には十分な時間をとり、説明書を渡すと同時に口頭でも説明し、疑問点には納得いくように説明を行っている。また、面会の際は意見交換を行い、相互に理解を深めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	相談や苦情を受け入れるホーム側の窓口及び職員が明確で、ホーム内にも掲示されており、家族や利用者にも折に触れて伝えて、家族や利用者から出た意見は顕著に受け止め、運営に反映させている。また、二ヶ月に一度の介護相談員の訪問により、利用者からの意見も取り入れ、日々向上に努めている。	面会時や行事参加時には家族の要望や意見を聞くようにしています。ケアに対する声などが多くみられ、散歩への要望については職員間で検討し、出来る限り思いに沿えるような支援に繋げています。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月に一度全体会議を開いており、各職員の意見を運営に取り入れている。又、委員会を作っており、その中で意見を反映させている。	全体会議や日々の申し送り時など、職員は自分たちの意見を言い合える関係にあり、充分なコミュニケーションが図られています。委員会活動を通じて意見が出され、外出支援をどのようにしていくかなど話し合われています。また、管理者は職員の様子を見て状況によっては個別のヒアリングも行っています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	勤務状態は把握しており、本人の自信に繋がる様なアドバイスもしている。又、夫々に役割を決めて責任を持ちながら業務に取り組める様働きかけている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	代表者自らが法人内研修を行い、職員は全員受講している。又、職員が自分に合った講習会、研修を自らすすんで受講もしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	GH連絡協議会の研修に参加して交流を図ったり、勉強会、意見交換等を行って、お互いの向上を図っている。又、他施設での実習を通して、他の施設の良い所を学んで取り入れるようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所時にアンケートを取り、それに基づいて本人の希望、不安等を把握し、本人の話す内容に共感・受容の体制をとっている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所時に説明書を渡すと同時に口頭でも詳しく説明を行うが、家族の思いも十分に伝えられる様、時間も充分にとっている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	情報を収集・分析して、一番良い方法を全職員で検討し、対応に努めている・入所後、状態の変化があった場合は、事業所の相談員と再び相談し、連携を取りながら対応している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	介護という枠にはめず、家族と一緒に生活しているという観点から、さまざまな話を話し合ったり、教えあったりという関係を築いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	毎月現状報告を作成し、体調面や日々の様子を報告すると共に、家族が面会に来られた時には、利用者に対する意見や要望を聞き、本人を支援していく為の意見交換を行っている。また、ホームの行事の際には案内状をお送りし、交流の場を設けている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人に面会に来られた時には居室に案内し、ゆっくり会話が出来る様に配慮している。	友人や親戚の来訪時等には間に入って会話が弾むように支援したり、電話の取り継ぎなど支援しています。昔行き慣れたスーパーや美容院などに出かけたり、昔の住まいを見に行くなど、利用者の関係が途切れないように支援しています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者全員の関係を把握しており、場面に応じてサポート・フォローに入っており、お互い良い関係が築けるように援助している。また、気の合う利用者同士、テーブル毎に分け、関係を深めることができるよう援助しています。		

グループホーム藤の園

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	求められれば情報提供を行ったり、相談にも応じている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入所時にアンケートをとり、本人の希望、意向を明らかにして、全職員が把握し、ケアプランの作成に活かしている。又、家族にも本人の思いを伝え、協力して頂ける様お願いしている。	入所時の家族からの聞き取りや、アンケートを基に意向を聞いています。利用者には日常の会話や動作で思いを推し量り、職員間で検討して意向の把握に繋げています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所時に本人または家族より、今までの生活の経過を詳しく聞き取り、全職員が把握して、不穏にならない様サポートを心掛けています。また、日頃より本人の言葉に傾聴し、日々の介護に反映させている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	入所時は特に状態把握に努めると共に、個別に排泄パターン、睡眠、バイタル等が一目で判るような用紙を作り、一人ひとりの現状把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	半年に一度は本人の意見も取り入れ、一人ひとりの状態に応じたケアプランの作成と、3ヶ月に一度は見直しを行い、1ヶ月に一度はモニタリングも行っている。ご家族にも意向を伺い、ケアプランに反映させている。	利用者や家族の意向を基に担当職員や看護師を交えて3カ月に1度評価見直しを図っています。毎月のモニタリングでは満足度を確認し、計画の見直しに繋げています。看護師を通じて医師の意見を反映し、状況に変化があるときには随時見直しています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別のカルテが有り、日勤帯・夜勤帯に於いて毎日の様子を記録しており、申し送りにより全職員が情報を共有している。特に気になる事等は職員用の申し送りノートに書き入れ、職員間で意見を出し合って日々の介護に活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人や家族の状態に異変が生じた場合は、同法人内に療養棟、老人保健施設、小規模多機能等があり、状態に対して柔軟な対応が取れるように努めている。		

グループホーム藤の園

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	介護相談員やボランティア、学生等の受け入れを行っている。また、馴染みの場所や公園など外出頻度を増やし、楽しみが増えるように支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	受診時には、当医院のDrの了解の上、本人または家族の希望する医療機関に受診出来る様配慮している。	入居時にかかりつけ医の継続を確認しています。協力医療機関である法人の医師による往診があり、利用者は月一度診察が受けられています。状況に応じて臨機に対応し、24時間、急変時も含めて連携が取れており医療体制が整えられています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	母体の病院より、毎日看護師が利用者全員の健康管理と医療的指示を行って来ています。定期的な訪問以外にも、利用者の状態を蜜に連絡を取り合って相談したり、指示を受けながら支援をしています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	各医療機関担当との情報交換を行っており、団体の方には相談員もおり、退院に向けての連絡も取り合っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	看護師に状態を細かく報告し、Drからの指示に従って対応し、家族には現状報告と共に事業所が出来る範囲の事を詳しく説明している。今後の変化に備えて事ある毎に検討し、指示を受けながら支援をしている。	入居時に事業所の看取り介護の実施とその指針について、家族に説明を行っています。利用者が重度化する中では、医療的に出来ないことなどを、家族と医師、管理者を交えて話し合いを持っています。実際には未だ看取りの経験はなく、状況に応じて職員間で話し合う意向にあります。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	全体会議等、全職員が集まる時に、急変時に備えての話し合いや実演などを行って、お互いに勉強しあっている。また、全職員がマニュアルも把握している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	地域の方達と協力体制についての話し合いも行われており、区長さんには運営懇談会時に、施設の避難訓練を行う際の参加協力をお願いしたりしている。又、職員は年3回、日中・夜間想定火災訓練、災害時における避難訓練を行っている。	年3回の訓練が行われています。1度は消防署の立ち会い、自主訓練を2回昼夜想定で、火災、災害時などそれぞれを想定した訓練を行っています。運営推進会議で提案のあった自警団との合流訓練などが企画されたり、今後法人内の他グループホームと連携をとる体制作りなどの準備をしています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個人の人格やプライバシーの尊重には全職員が常日頃から心がけて対応している。又、今までに何度も研修を受けており、職員全員が常に認識しながら言葉かけ等行っている。	法人研修は全職員が受講できるようにしており、順次参加する中でプライバシーや人権に対する職員の理解が深まっています。トイレ誘導時にはタイミングや声かけの仕方など留意しています。万が一不適切な声掛け等が見られた場合は、管理者は直接注意を促すようにしています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	まず、職員との信頼関係を築いた上で、本人が理解出来る言葉使いで働きかけ、常に選択できる環境を作ることで要望や自己決定が行える様に支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ホームでの一日の流れはあるが、本人の気持ちを尊重し、利用者個人のペースを保ちながら、自由に暮らせるように支援している。また、外出要求が強い方に対しては、散歩や買い物を取り入れ、気分転換を図っている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人が希望する店があれば、ご家族にも協力して頂き、それに添う様に援助したり、外出が困難な利用者には理容師に来てもらったり、または本人の希望であれば職員により散髪したりと支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	危険の無い限り、職員と一緒に台所に立ってもらったり、盛り付けや配膳など、その人の能力に応じた範囲で行ってもらっている。	食事作りは、ジャガイモの皮むき、盛り付け、配膳など利用者が出来ることに携わってもらっています。献立作りは利用者の意向を聞いたり、一緒に買い物に行ったり、庭で採れたナスやキュウリなど収穫物を利用して利用しています。利用者の声を聞き、外食やタコ焼きパーティー、おはぎ作りなど、食事を楽しんでいます。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	Drの療養管理指導書に基づき、一人ひとりの栄養状態や水分の確保量を把握しており、その人の状況に応じた形で摂取して貰える様支援している。また、栄養士とも連携し、満足のいく食事提供に努めている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後に歯磨きの声掛けを一人ひとりに行い、一人で出来ない利用者には職員がついて一つの動作毎に声掛け、指示を出して一緒に行ってもらっている。		

グループホーム藤の園

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	トイレチェック表を作成し一人ひとりの排泄パターンを知り、その人に応じて声かけ、又はトイレ誘導を行っている。	利用者の状況に応じた支援で、出来るだけ失敗の無いように努めています。パッドの工夫であったり、声かけが必要な方やしぐさで誘導するなど利用者毎に把握し支援しています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	一人一人の排泄パターンを把握し、排泄チェックを行った上で、その人に応じた飲み物等(きなこ牛乳やヨーグルト等)を摂取してもらい、どうしても排便が無い場合はNSと連絡を取り下剤服用等の対応をしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	一応曜日は、決められているが、入浴時間や入浴内容は、個人の希望を取り入れて、ゆっくりと気持ち良く入ってもらえるように支援している。	週2回を入浴日に定め、朝から夕方までゆっくりと時間をとった入浴支援を行っています。体制的には夜間の入浴等の対応は行っていないですが、状況によっては清拭などで対応をしています。みかんの皮や入浴剤など希望に応じて利用しています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	居室入りロドアの開閉、室内灯に点灯又は、豆球を付けておく等は、全て本人の希望を取り入れ安心して眠れるように支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	投薬管理表を作成し、薬剤情報を全職員が目を通し目的や用途について理解している。うまく服薬できない利用者には側について飲み込むまで確認を行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	月に一度は利用者の意見も取り入れ、変わった日常を演出し、メリハリのある生活を心掛けている。職員は利用者の事をよく理解しておりその能力に応じた事を本人の納得の上で行ってもらう。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気の良い日には近所を散歩したり職員とマーケットへ買い物に行ったりしている。年間行事として、年に数回は家族にも声かけ、一緒に楽しい時間を過ごしている。また、日常的に市内ドライブにお連れし、気分転換を図っている。	出来るだけ利用者と共に散歩や買い物に出かけるようにしています。気候の良い時期には家族にも声を掛けて、桜や菊人形、紅葉など季節を楽しめる外出を企画しています。時には外出時に喫茶店に寄るなど利用者の希望に沿えるよう支援しています。	



グループホーム藤の園

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	小遣金程度の金額は、個々に出納帳を事務所で管理しており、希望があればいつでも使える様になっている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望時には電話番号を調べ話せる状態まで支援している。郵便物も即刻本人に手渡しをし、出す時は職員が責任をもって出しに行くまでの支援を行っている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者が手作りした貼り絵や工作を壁に飾り、季節感を演出している。庭で育てた花を活けて頂いたり、フロアには畳みの間もあり家庭的な雰囲気をごころがけている。中庭に植えてあるプランターの花々を見たり触ったりすることで季節を感じて頂いている。	利用者と共に作ったはり絵は、季節毎に張り替え楽しんでます。習字やぬり絵など利用者の作品は思い出と共に張り出し、庭で咲いた花などと共に飾られています。広い窓からは、花や野菜などの実りが見え、時には利用者と茄子やキュウリなど収穫を楽しんでいます。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	気の合う利用者同志をテーブル毎に分け、楽しい時間を過ごして頂いている。また、全員が座れるソファの他に、肘宛イス等を所々に置いておき思い通り座り過ごせる場所が設置されている。時には畳に座って頂き、職員と話しながら洗濯たたみ等をして頂き1対1の関係を築く場面も心掛けている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入所時に本人の家庭馴染みの家具を自由に持ち込める事を説明する。使い慣れた物を持ち込まれ室内の配置など居心地よく過ごせる様に支援している。	居室にトイレや洗面が設置されています。ホームで作られたぬり絵や手作りの品、誕生日祝いの記念写真が載った色紙などが飾られ、居心地の良さが演出されています。障子のある和室では、穏やかな光となり落ち着いた居室となっています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	今日の日が一目でわかる手作りカレンダーやわかりやすい時計が見やすい場所に配置してある。居室入り口には名札が掛けてあり、字がわからない人は花などを飾り目印にしたり矢印を書いて覚えてもらうようにしたり、混乱を防ぐ工夫をしている。		